

# はくさん

第49巻 第1号

## 目次

P 1  
 榎の木台駐車場から望む初夏の白山

P 2  
 白山白川郷ホワイト  
 ロードの自然と  
 見どころ  
 平田 昭生

P 10  
 里山の課題解決に  
 必要なビジネス視  
 点  
 ～里山総合会社・山  
 立会の取り組み～  
 有本 勲

P 16  
 センターの動き



## とが きだい 榎の木台駐車場から望む初夏の白山

白山白川郷ホワイトロードの石川県側、起点から 17.6km、標高 1,400m にある榎の木台（とがのきだい）駐車場は、ホワイトロード内で最も綺麗に白山が眺望できることで人気の駐車場です。春から夏はまだ雪を頂く白山が、秋、例年 10 月中下旬頃には周辺のブナをはじめとする原生林が美しく色づき、紅葉が美しいホワイトロードの中でも最も紅葉の美しい絶景スポットです。また、ここからは平成 30 年（2018 年）、岐阜県側にある三方岩岳（標高 1,736m）へ登る登山道が新たに整備され、気軽に楽しむこともあって、春から秋、シーズンをとおしてトレッキングを楽しむ方が多く見られます。途中にあるふくべ上園地展望台（写真右下）からは右手に白山、左手に三方岩岳の雄大な姿がご覧いただけます。

（平田 昭生）

# 白山白川郷ホワイトロードの自然と見どころ

平田 昭生（白山白川郷ホワイトロード石川管理事務所）

## はじめに

白山<sup>しらかわごう</sup>白川郷ホワイトロードは、昭和 52 年（1977 年）に開通しました。この道路が開通するまでは地元の人ですら訪れることが少なく、ほとんど手つかずの自然が残っていた蛇谷<sup>じやだに</sup>溪谷を縫うように走っています。白山北側一帯の開発と森林管理を目的として、また、永年にわたり地元の悲願であった石川県から中京圏（岐阜県）を結ぶ連絡道路として開設された山岳道路です。開通以来、長く「白山スーパー林道」と呼ばれてきた愛称は、平成 27 年（2015 年）「白山白川郷ホワイトロード」に改称されています。

総延長 33.3km と比較的短い道路ですが、手取川源流の一つ尾添川<sup>おぞう</sup>支流の蛇谷の峡谷美や、白山北側の頂上付近の眺望が大変美しく、岐阜県との県境である三方岩岳を越えて、世界遺産白川郷合掌造り集落のある白川村を結ぶ道路は、その多くの区間が白山国立公園内を走行しています。山岳観光道路として、多くの人達が白山国立公園の雄大で貴重な自然に気軽に触れることのできる貴重な道路として利用されており、春は新緑と残雪の白山眺望、夏は避暑やトレッキング、秋は日本紅葉の名所 100 選にも選ばれた紅葉など、白山の自然の魅力にあふれています。以下に、そうした白山白川郷ホワイトロード（以下ホワイトロード）の見どころと自然について紹介します。



空から見た白山白川郷ホワイトロード

## 白山白川郷ホワイトロード、道路の規模

延 長 33,331m（石川 18,591m、岐阜 14,740m）

うち有料区間 24,531m（石川：14,091m、岐阜：10,440m）

無料区間 8,800m（石川：4,500m、岐阜：4,300m）

幅 員 6.5m（全線 2 車線舗装自動車専用道路）

その他 供用期間は 6 月上旬から 11 月 10 日まで（積雪の状態によって変更）ですが標高も高く気象条件が厳しいことから気象状態によって通行止めになることもあります。

## ホワイトロード沿線の地形と景観

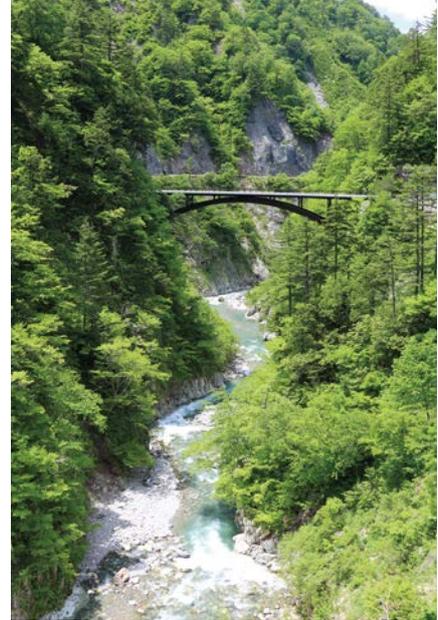
ホワイトロード沿線は、長年にわたる地殻変動や今も地下深く活動を続ける白山火山、さらには国内有数の豪雪地帯であることなどにより生まれた、珍しい地形や優れた絶景がたくさんあります。

### V字谷と滝

石川県側からホワイトロードに入って最初に目に入る絶景が、蛇谷の深いV字峡谷です。全国有数の豪雪地帯にあり、谷沿いの急峻な山々から春の雪解けとともに一気に流れ出す大量の雪解け水によって深く削られたV字谷は壮観ですが、特徴として峡谷の途中にある様々な姿をした、いくつもの滝の存在があげられます。姥ヶ滝、かもしか滝、ふくべの大滝など名前が付けられた落差50m以上の大きな滝だけで7つありますが、このように狭い峡谷に連続して、しかも姿形の違う多数の滝が見られる地域はあまり例がありません。その勇壮で美しい姿で特に夏は涼感をもたらしてくれる、ホワイトロードを代表する景観となっています。

蛇谷の滝は多くが蛇谷本流とその支流の合流点に形成されています。これは大量の雪解け水が集まり流れ込む本流と支流の水量の差が非常に大きいことが原因で、川底を削る水の量の差から合流地点に落差が生じるため、そこに滝が生まれたと言われています。

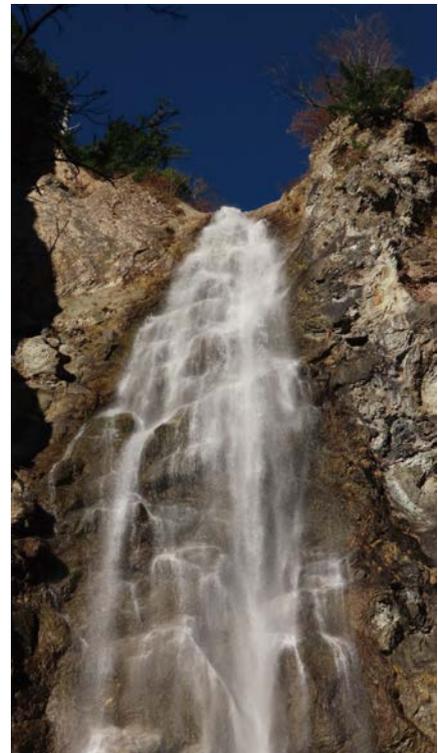
滝の形は姥ヶ滝のように斜面の岩肌をなめるように本流に直接流れ落ちる滝と、しりたか滝やふくべの大滝のように本流から後退し、ほぼ垂直に落下するものがありますが、その姿の違いは比較的柔らかい凝灰岩ぎょうかいがんからなる姥ヶ滝、凝灰岩より侵食に強い角礫岩かくれきがんが含まれたふくべの大滝のように、滝を作っている岩盤の硬さの違いから生まれたといわれています。



蛇谷溪谷のV字谷



姥ヶ滝



ふくべの大滝

### ちゅうじょうせつり 柱状節理とアバランチシュート

ホワイトロードで最も大きい橋、蛇谷大橋を渡った辺りから対岸には珍しい地形が続きます。大橋

のすぐたもと上流側には、垂直に切り立った崖にアカマツやキタゴヨウが生えた、まるで中国の深山<sup>しんざん</sup>幽谷<sup>ゆうこく</sup>の山水画にあるような景観を観ることが出来ます。この崖は、溶結凝灰岩からなる柱状の岩が垂直に切り立った姿となった柱状節理と言われる地形です。さらにそこからしばらく走ると、対岸に樹木もまばらで山肌の岩がまるでスプーンで削られたような地形が連続して見られます。これはアバランチシュート（アバランチは雪崩、シュートは溝の意味）と呼ばれる日本海側の豪雪地帯に多く見られる地形で、長年にわたり毎年繰り返し発生する雪崩などが山肌を削ることで出来た珍しい地形です。



柱状節理



アバランチシュート

### 熱水と噴泉塔<sup>ふんせんとう</sup>

ホワイトロード沿線には、白山火山の影響を受け温泉が噴き出す場所が多いことも特徴です。特に有料区間の起点近くにある中宮温泉は開湯 1300 年とも言われている湯治場で、その奥まったロケーションと春から秋の間だけしか利用できないため、いわゆる秘湯中の秘湯とされています。

ほかにも道路内にある蛇谷園地駐車場から遊歩道を 20 分ほど降りた河岸にある天然の温泉は「親<sup>おや</sup>谷の湯」と呼ばれ、古くから飛騨の国（今の岐阜県）から皮膚病に効くとの効能を求めて険しい山を歩いて越えて湯治客が訪れていたと伝えられる、これもまた秘湯です。現在でも露天風呂や足湯を楽しむことが出来ます。

また、親谷の湯周辺には河岸のあちこちに 90℃程度の熱水の噴き出る箇所があり、その様子を見ることが出来ます。また地面から噴き出した温泉の成分が地表で固まり、塔のように高く成長した珍しい「噴泉塔」を見ることが出来ます。年々成長を続け高くなる親谷の噴泉塔は、一時 1m 以上にもなりましたが（写真）、残念なことにこの冬折れてしまいました。ただ既に新たな塔が伸び始めています。

こうした温泉や熱水の存在は、現在は活動していないものの、この一帯が、地下深くで現在も火山活動を続けている活火山であることを改めて思い起こさせてくれるのです。



姥ヶ滝を前にした親谷の湯



噴泉塔

### 紅葉の美しさ

ホワイトロードの最も美しい姿を見せてくれるのが、紅葉の季節です。2010年に、『日本紅葉の名所100選』にも選ばれ、秋には近隣の地域だけでなく全国各地から多くの観光客が訪れにぎわいます。

ホワイトロードの紅葉の最大の特徴として、非常に長い期間、色づきが楽しめることがあげられます。標高約600mから1,400mと、標高差が800mと大きいことから、最も標高の高い県境の三方岩駐車場から色づき始めた紅葉は、およそ1か月をかけてゆっくりと降りてきます。つまりはこの1か月間の間に訪れた利用者は、この間いつ来られても道路の途中どこかで綺麗に色づいた見頃の紅葉を見ることが出来ます。

もう一つの特徴としてその奥行きと深さと多彩な色あいがあげられます。これは沿線の森林が、国立公園内にあり開発が厳しく制限されていることから、豊かな森林が広がっているからです。そのほとんどが人の手が入っていない天然林であることから、構成する植生の種類も多く、ヤマウルシ・ナナカマド・ヤマモミジなどの赤、ダケカンバ・カエデ類などの黄色、ブナ・ミズナラの赤褐色とそれぞれ異なる色あいで入り交じり、まるでパッチワークのように変化に富んだ模様が山全体を覆います。



国見山からの紅葉



紅葉の第2ヘアピン

また、蛇谷を流れる水も雨の少ない夏にあっても年間を通して適度な水分を周辺の森に供給していること、峡谷の切り立った岩肌は昼夜の温度差が大きいことも、紅葉の色づきを美しくしている理由であると言われています。



上空からみたパッチワークのような紅葉

### ホワイトロード沿線の動植物

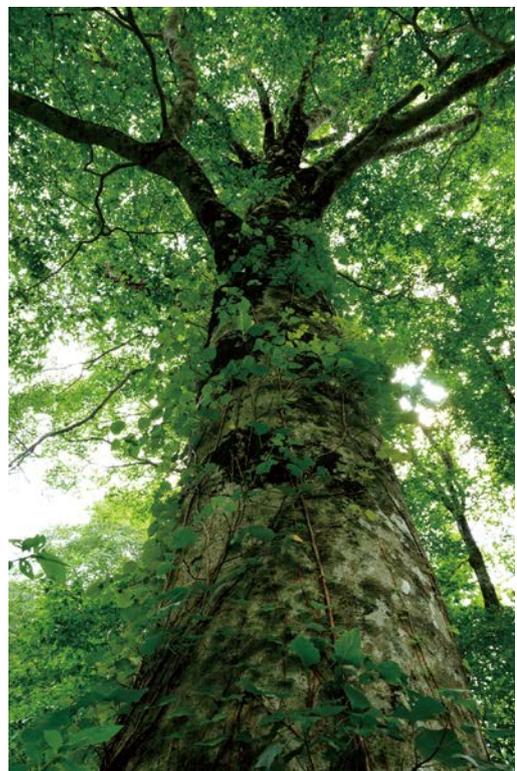
その多くが白山国立公園内にあるホワイトロード沿線は、県境に近い区間では特別保護地区に指定されています。人の手がほとんど入っていなかったことから、森林や動植物など白山の貴重で豊かな自然が残されており、そうした貴重な自然が、誰にでも、一步車から降りるだけで、触れ、目にすることができます。次にそうした動植物について紹介します。

#### 原生林（ブナ・ミズナラ原生林、ダケカンバなど）

ホワイトロード沿線の森は標高の高い区間では、その多くがブナの原生林からなります。高さが30m近く、胸高直径が60～90cmの大木もあり、中には200～300年の風雪に耐えぬいてきたものもあります。

開通前の春5月、いち早く始まるブナの黄緑色の芽ぶきと残雪や針葉樹林の濃い緑とのコントラストは大変鮮やかです。さらに青葉の夏、紅葉の秋、そして落葉した晩秋の白い樹幹と、ブナ林は四季折々に美しい姿を見せてくれます。

また、こうした原生林を水源とすることから、蛇谷は一年をとおして安定して水が流れ、水温が冷たく流れも早いです。夏でも青く澄んだ流れが絶えないことは、水源涵養機能に優れたブナを中心とした原生林のめぐみであると言えます。ブナ以外にも広葉樹ではミズナラの古木をはじめ、ダケカンバ、ナナカマド、ハクサンシャクナゲが、針葉樹ではキタゴヨウやオオシラビソ、クロベ、コメツガなど平地では見られない樹種も多く見られ、また、そうした豊富な樹種と植生が秋には色彩に富んだ美しい紅葉を見せる要因ともなっています。



樹齢約250年のブナ（蛇谷園地）



ダケカンバの古木



ブナ・ミズナラ原生林の紅葉

### 山野草（200 種以上の種類の多さ）

ホワイトロードは、沿道には平地の植物から高山植物まで様々な種類の山野草が生育し、その種類は山野草だけでも 200 種以上にも及びます。雪解けの頃のカタクリやキクザキイチゲ、ニリンソウ、夏から秋にかけてはニッコウキスゲやシナノナデシコ、カライトソウ、ふくべの大滝観瀑台の斜面には、イワギク、アサギリソウ、ツメレンゲなどの珍しい草花が、また、一般的には高山帯の石礫地で見られるようなイワベンケイ、タカネナデシコなどといった植物も見られます。

特にトレッキングに訪れる人の多い三方岩駐車場からの登山道沿いにはハクサンチドリやコバイケイソウ、イワカガミ、ハクサンシャクナゲといった亜高山帯から高山帯で見られる植物が多く見られ、登山客の目を楽しませてくれます。なぜ、最も高い三方岩岳でも標高 1,700m 程度のホワイトロード沿線に、このように本来は高い山に生える植物が見られる理由については、よく分かっていません。



タカネナデシコ

### 野生動物（ニホンザル、ツキノワグマ、カモシカなど）

ホワイトロード沿線で、時おり見かけるのが、野生のニホンザルの群れです。不思議なことにこのサルは、人や車が通りかかってもさほど気にせず、のんびりと道ばたで毛づくろいをしたり木に登って木の実を食べたりと、人を恐れることがありません。人里近くのサルと違って畑を荒らし人間に追い立てられ怖い目にあわされたことがないためなのか理由は分かりませんが、ホワイトロード内では近からず遠からず、ちょうどいい距離でサルのがのんびりとした姿をご覧いただけます。春には生まれたばかりの赤ちゃんザルをおなかにぶら下げたり背中に乗せた姿を見ることも出来ます。ただし、人を恐れずとはいえず、野生のサルです、サル達のためにも人間の食べ物を与えたり近づきすぎたり、刺激して怒らせたりしないようにご注意願います。

ニホンザルのほかにもホワイトロードでは、まれにツキノワグマやニホンカモシカ、ノウサギ、イノシシ、最近ではニホンジカを目撃することがあります。ただ、こうして野生動物達を道路内や沿線でよく見かけるのも、獣害に悩む里山とは理由も状況も違い、そもそもホワイトロードが動物達のもとも多く生息していた地域だからなのです。つまりはあくまで動物たちが先住者であり、私達人間

はそこにお邪魔させていただいているだけなので、もし動物たちが道路に現れても動物が優先です。怖がらせないように車はできるだけ徐行していただくようお願いします。



道路上に現れたニホンザル、ニホンカモシカ

### 希少<sup>もうきん</sup>猛禽類（イヌワシ、クマタカ、ハヤブサなど）

中宮展示館前の芝生や中宮料金所手前の道路脇に大きな望遠鏡や望遠レンズ付きのカメラを構えて一日中空を見上げている方たちをたまに見かけます。

ホワイトロード上空に現れる希少猛禽類のイヌワシ、クマタカを一目見ようとする人達で、中には毎年県外から来られている方もいます。日中気温が上がり、蛇谷上空に強い上昇気流が発生するお昼近くに高い空に円を描くように上昇していくイヌワシやクマタカの姿を見ることがもできます。

また、ハヤブサは複数の若鳥が落石防護柵に止まっていたり、ふくべの大滝付近の断崖付近で鳴き交わし飛び回る親子も目撃されています。このように希少な猛禽類がよく観察されるのも、この地域の自然が豊かで正しく保全されている証しです。



ガードケーブルに止まるハヤブサ

## おわりに

ホワイトロードは今年、開通から 44 年目を迎えます。開設当初、一部の環境保護団体等からは自然破壊だと強い反対運動と批判にもさらされた工事でしたが、開通から 40 年以上が経った今、開設当初、掘削土砂で荒れていた斜面にも初期の人為的な植生であったハンノキやヤシャブシに代わり周囲の山からダケカンバや、カエデ類など自生する樹木が侵入し入れ替わり、回復しています。治山工事も成果を上げ、今では裸地化した斜面はまったくなくなりました。開設当時斜面に細々と残ったブナも今では直径 30cm を超えるものもあります。道路のすぐ脇には、シナノナデシコやヤマホタルブクロの群落が出現し、なにより驚くのは吹付法面やコンクリート法枠といった人工工作物の中にウメバチソウやカライトソウ、標高の高い所ではハクサンチドリが自生し、石積みにはイワギクやツメレンゲ、切取った岩盤にはムシトリスミレなどの希少な山野草までも侵入し自生していることです。

開設から長い年月を経た今、年々こうして開発前ここにあったであろう植生へと変化していく様子を目にするなかで、強く感じるのは自然の持つ強い生命力と復元力です。切り開かれた道路が、自然が持つ生命力で、もとの環境、植生へと復元しつつある姿を今、進行形で見ることが出来ているのか

かもしれないと思うのです。

そして、そんなホワイトロードが、今では学校の遠足や野外体験に訪れた子供達に白山地域の地質や自然、その素晴らしさ、大切さを伝える貴重な自然環境学習の場となっていることを嬉しく思うとともに、石川県と中京圏を一本の道で繋ぎたいという大きな夢をもって、この非常に困難な工事に挑んだ先人たちにも感謝の思いをはせるのです。そして、せっかくのこの道路の素晴らしさを知らない、白山白川郷ホワイトロードを訪れたことのない方達にぜひご利用いただき、白山の自然を知るきっかけとなればと願います。

**白山白川郷ホワイトロードについて詳しくは**

**公式ホームページ URL : <https://hs-whiteroad.jp> をご覧ください。**



白山白川郷ホワイトロード見取図・みどころ

# 里山の課題解決に必要なビジネス視点

## ～里山総合会社・山立会の取組み～

有本 勲（合同会社山立会）

山立会（やまだちかい）は、里山である白山麓<sup>ろく</sup>地域を舞台に、菌床なめこ生産<sup>きんしょう</sup>、ジビエ販売、羊放牧、野生動物調査、食堂など色々な里山ビジネスを展開しています。今回は、山立会を立ち上げた目的、現在進行中のプロジェクト、および将来目指しているところについて紹介させていただきます。

### 1. 山立会を立ち上げた目的

#### 山立会設立の経緯

私のももとの専門は野生動物管理学で、大学ではツキノワグマの生態を研究していました。就職で白山麓に移住し、白山自然保護センターや一般社団法人白山ふもと会で働く中で、獣害をホンキで解決するためには、現場である中山間地の活性化が不可欠だと考えるようになりました。取るべき獣害対策が分かっても担い手となる地域住民がいなければどうにもならないからです。

中山間地の大きな課題である過疎高齢化の主な原因は、中山間地では稼ぐのが難しいことだと思います。例えば、白山ふもと会では年間300頭ほどのイノシシを食肉処理して販売していましたが、野生動物であるイノシシは捕獲数が不安定で計画的な営業が難しかったです。また、常勤社員が私一人だったため、営業や商品開発まで手が回らなかったり、そもそも経験がなく方法が分からないという問題がありました。飲食店の場合は、客数が都市部に比べて圧倒的に少なく、冬には客足が激減するなどの難しさがあります。

そこで、私はいくつかの事業を組み合わせれば、食っていけるのではないかと考えました。社員が増えれば楽しい雰囲気になるし、事務所や経理もまとめることで経費節減にもなります。また、里山には、獣害のほか、耕作放棄地、高齢化に伴う伝統産業の廃業などの課題も多く、一事業だけでは里山の課題を解決できないことから、総合的に取り組むというのは理にかなっています。そこで、里山の課題を総合的に解決し、また、新たな価値<sup>ちか</sup>を創っていくための挑戦の場として、2017年に「里山総合会社山立会」を立ち上げました。

#### 地域活性化に必要なのは“ビジネス”の力

私は、里山に足りないのは“稼ぐ力<sup>かせ</sup>”だと考えています。たとえ社会的にどんなによい取組みでも、稼げなければ続けられず、社員のためにも地域のためにもならないからです。

山立会は“山のビジネスモデル屋”として、しっかりと利益を得られる仕組み（ビジネスモデル）を作りながら地域課題に取り組んでいきます。経営方針としては、1つ目に、できる限り会社の規模拡大を目指しています。規模拡大によって業務効率化を進めなければ、都市部の企業に勝てないからです。現在、正社員計5名とパート9名で進めています。複数の社員がいることで、忙しい時に助け合ったり、得意分野を任せたりなど効率化が進んでいます。または、一人では



▲山立会ロゴマーク

できなかった事業にも取り組めるようになっていきます。

2つ目に、里山に関わるものであれば、業種や地域は制限を設けていません。最初は、白山山立会という社名を考えていましたが、あえて“白山”は外しました。チャンスや課題はそのときどきなので、新しい事業にも臨機応変に挑戦しています。

3つ目に、できる限り急いで進めています。生態系に悪影響を与えるシカの増加や過疎高齢化が待ったなしの状況です。また、事故や病気で突然亡くなる知人をみてきました。自分もいつ何が起こるか分からないので「やりたいことは全部やる」という方針のもと、大きなリスクをとってやや強引に進めています。

4つ目は、行政や補助金に依存しないことです。獣害対策も地域活性化も行政に何とかしろと依存するのではなく、自分達でビジネスモデル（稼ぐ方法）、解決策を考え、自分達で実行しています。私も補助金は活用していますが、補助金の終わりと同時に事業も終わるといことがないように、その後のビジネスの発展につながる体制づくりに取り組んでいます。



▲里山総合会社のイメージ図（2019年に作成したもの）

## 2. 現在進行中のプロジェクト

次に、山立会の主な事業をご紹介します。業種を絞っていないため、なめこや羊のように、「山立会でできないか？」という依頼を地元から受けて始まった事業もあります。

### ジビエ

私は、白山ふもと会で年間300頭のイノシシを解体してきました。そのときの経験から解体は頑張れば何とかできるのですが、それよりも難しいのは肉を“売る”ことです。少人数でやっていることや営業のノウハウがないことから、うまく売りさばくことができず、売れ残る部位がたくさんあり

ました。

そこで、山立会では、小規模な食肉処理施設からジビエを仕入れ、販売する事業に取り組んでいます。現在、白山ふもと会（白山市）および里山食品（穴水町）と連携し、一つ一つの会社は小さくても、3社全体として生産から販売までを上手く回せるように取り組んでいます。2021年6月からは食肉製品製造業の許可も取得し、ソーセージなどの販売も開始します。



▲イノシシ肉をさばいている様子

### 野生動物管理

私がかつと野生動物に携わっていたことから、石川県や市町から野生動物の調査や研修の仕事を請け負っています。ジビエ活用研修や自動撮影カメラによるクマやシカの生息調査、ニホンザルの行動域調査や捕獲事業などです。

また、今年度からは、イノシシ等の田畑への侵入を防ぐ“防護柵”の設置代行サービスを開始します。獣害対策は「住民自身がやるもの」とされていますが、水道工事や親の介護のように一部を専門業者に任せるといった新たな選択肢を提案します。



▲狩猟フィールド体験の様子

きなめり  
木滑なめこ

白山麓で40年以上つづく木滑なめこは、地域の旅館・飲食店で長年使われており白山麓地域の名物となっています。特に、普通のなめこの30倍以上の重さがある“でけえなめこ”は観光客から大人気。しかし、事業主の高齢を理由に廃業する危機にありました。そこで、絶やしてはいかん！と思い、2018年に事業を引き継ぎました。

設備の老朽化が進んでいたため事業承継後は毎月のようにどこかを修理して金銭的に大変苦労しました。

その中でも、増産したり、でけえなめこについては単価を少し上げることで売上を2年間で1.8倍にアップできました。生産量では中小規模のなめこ農家ですが、でけえなめこを武器に「日本一有名ななめこ農家」を目指して生産だけでなくPRにも力を入れて取り組んでいます。



▲木滑なめこ. 大小7サイズに分けて販売しています

ひつじ放牧

白山市木滑で耕作放棄地の解消と新たな<sup>なりわい</sup>生業創出を目指して、石川県立大学と白山麓羊推進協議会が5年前から羊の放牧を進めていました。しかし、収支はトントンの状態で残念ながら補助金の終了に伴い事業も撤退となりかかっています。飼育技術は石川県立大学が確立していたので、あとは採算のとれる価格で“売る”ことさえできれば地域の新たな魅力になると思い、見切り発車で引継がせていただきました。



▲生後2か月の仔羊

事業を開始するにあたり、クラウドファンディングで活動資金を募ったところ、なんと目標の80万円を大きく超える300万円の支援を頂きました。また、2021年度は、初めて羊オーナー制度（仔羊の段階からオーナーとして購入していただき、成長過程をメールや体験で見守っていただく仕組み）にも挑戦しています。また、羊は山立会だけの事業として取り組むのではなく、白山麓全体を盛り上げる起爆剤にできればと考えています。地元の旅館やスキー場と連携して、白山麓を羊を見たり食べたり遊んだりできる地

域＝白山ラムパークにします！

### 山立会食堂

山立会の事務所を改修して、2021年5月から食堂を始めました。山立会が扱うジビエ・ラム肉・木滑なめこをメインに、昼はジビエ丼やなめこ蕎麦、夜は通常の焼肉・ホルモンに加えジビエ・ラム肉も楽しめる焼肉店です。また、ジビエや木滑なめこの直売所も兼ねています。

食堂は、山立会の起業当初から作りたいて考えていました。山立会の社員だけで活動するのではなく、里山に関心のある人が集まれる“まちづくり拠点”が欲しかったためです。そのため、2週間に1回程度は地域のことが分かる簡単なイベントを企画したり、会議スペースとしてレンタルしたりといった使い方もできます。食堂で直売することで、他の直売所で販売するよりも利益率がアップすることや、お客様と直接話す機会が増えて人脈を広げられるとよいなとも考えています。ぜひ山立会食堂に会いにきてください。



▲山立会食堂（2021年5月オープン）

### 3. 今後、目指しているところ

#### 全国展開へ

山立会は現在は、ほぼ石川県内で活動していますが、ゆくゆくは全国展開する計画です。目標は2034年（私が50歳になる年）までに、全国15拠点、社員300名、正社員の平均年収700万円です。中山間地の過疎高齢化が待たないのは、全国どこでも一緒であり、各地で個々の組織が現れ成長するのを待っていたら実現できるかどうかは人任せになります。そこで、白山で蓄積した里山ビジネスのノウハウを山立会が全国展開することで、より早く確実に中山間地域の活性化を進めたいと考えています。例えば、獣害対策であれば全国どこでも仕事はありますし、事業承継する場合でも基本的な経営知識があればゼロから始めるより着実な経営ができるはずです。

#### 会員募集

全国展開へ向け新規事業を始めたり、それに必要な社員を雇用するためには、十分な売上を立てる必要がありますが、普通にやっていると何年もの時間がかかってしまいます。また、中山間地でのビジネスは、人口＝客数が少ないことなどから基本的に都市部より稼ぐことが難しい地域なので、一層たくさんの知恵を集める必要があります。

そこで、私は、山立会のまちづくりに関わってくれる方を増やすために、オンラインサロン「里山ビジネス研究所」を開設することにしました。オンラインサロンとは、会員のみが閲覧できるネット上のコミュニケーションの場です。

白山麓の獣害や過疎高齢化を心配し何とかしたいという熱い思いをもった方々がたくさんいることを感じています。しかし、都市部に住んで普段の仕事を抱えていると、なかなか解決に向けた行動に移せる場がないのが現状だと思います。里山ビジネス研究所では、都市部に住んでいる方でも、サロン内でアイデア・意見を提供するといった参加方法も可能です。やる気しだいでは、会の中で独自の活動（ビジネス）を考え実行してくれるメンバーが現れることも期待しています。きっと面白い関わり方ができるはずですので、興味のある方は、山立会のホームページ（<https://yamadachi.com/>）をぜひご覧ください。

#### おわりに

白山の豊かな自然や生活文化の恵みを享受している方は多いと思いますが、このままシカ・イノシシの増加や過疎高齢化が進めばそれらを失う危機にあります。人（行政）任せにするのは簡単で自分でやるのは大変です。山立会は自分たちで行動を起こします。今は、周りからはできっこないと笑われ、心配され、たしかに実力も足りてないですが、失敗の恐怖と日々葛藤しつつ挑戦をしています。地域活性化をホンキで実現するためです。そんな思いのもと、よい商品・楽しいサービスを作っていきますので、応援よろしく願いいたします！！

## センターの動き（令和3年1月1日～令和3年6月30日）

- |      |  |      |                            |
|------|--|------|----------------------------|
| 1.4  | ブナオ山観察舎雪遊び days（～11日）（尾 添）             | 3.22 | 石川県特定鳥獣管理計画検討会（金沢市）        |
| 1.15 | 白山火山防災協議会三県コアグループ会議（金沢市）               | 3.22 | オキナグサ盗掘防止パトロール（～5.28）（白山市） |
| 1.23 | 白山自然ガイドボランティア研修講座（尾 添）                 | 3.24 | 白山登山交通対策協議会幹事会（白山市）        |
| 1.29 | モニタリングサイト1000高山帯調査検討会 web 会議           | 4.8  | クマ出没対応連絡会議（金沢市）            |
| 2.12 | ニホンザル冬季集中調査（～3.11）（白山市ほか）              | 4.20 | 白山登山交通対策協議会総会（白山市）         |
| 2.14 | 白山まるごと体験教室「雪の白山ろくでかんじきハイクと冬の自然観察」（白 峰） | 4.22 | 白山手取川ジオパーク定期総会（白山市）        |
| 2.26 | 白山手取川ジオパーク推進協議会臨時総会（白山市）               | 4.29 | 市ノ瀬V C、中宮展示館開館（白山市）        |
| 2.27 | 白山ろく少年自然の家事業 講師（白 峰）                   | 4.29 | 中宮展示館早春 days（～5.5）（中 宮）    |
| 3.2  | 国立公園シカカメラ調査 最終報告会（センター）                | 5.6  | ブナオ山観察舎閉館（尾 添）             |
| 3.3  | 白山国立公園生態系維持回復事業専門委員会（金沢市）              | 5.11 | 県政出前講座「白山の自然と暮らし」（白山市）     |
| 3.6  | 白山ろく少年自然の家事業 講師（白 峰）                   | 5.12 | 市ノ瀬V C、中宮展示館休館（～6.13）（白山市） |
| 3.12 | 白山国立公園生態系維持回復事業検討会（金沢市）                | 5.24 | 白山二県合同山岳遭難防止対策担当者 web 会議   |
| 3.13 | 石川県自然解説員研究会総会（白山市）                     | 6.27 | オオバコ等除去 in 市ノ瀬（市ノ瀬）        |
| 3.16 | 河内小学校オキナグサ授業（鳥越小学校 3.23）（白山市）          | 6.29 | 白山火山防災訓練（白 山）              |



令和3年1月12日のブナオ山観察舎トイレ。3年ぶりの大雪となりました。



2年ぶりの開館となった中宮展示館周辺の蛇谷自然観察路

### たより

昨年に引き続き今年も新型コロナウイルスが猛威を振るい、5月には石川緊急事態宣言が発出されました。白山でも残念ながら市ノ瀬ビジターセンターや中宮展示館などの施設を6月13日まで休館し、室堂も営業開始時期が6月11日からとなりました。

このため今回は少しでも白山の雰囲気を感じていただくため、最も気軽に行ける白山国立公園2年ぶりの全線開通となる白山白川郷ホワイトロードを紹介します。また、表紙の白山眺望のシリーズも同ロードから見る白山で、普段見慣れている優しい姿とは異なる地獄谷を従えた荒々しい白山を見ることができます。

また、この白山の麓を舞台に活躍している山立会を取り上げます。高齢化が著しい白山麓にあって、地域資源を生かして活性化を図ろうとする活動を見守り続けていきたいと思えます。（宮崎）

はくさん 第49巻 第1号(通巻192号)

発行日 2021年6月30日（年3回発行）  
印刷所 前田印刷株式会社

編集・発行

石川県白山自然保護センター  
〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4  
TEL.076-255-5321 FAX.076-255-5323  
URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/>  
E-mail [hakusan@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:hakusan@pref.ishikawa.lg.jp)

本誌は、再生紙へのリサイクル可能な用紙を使用しています



広告

# 「はくさん」に広告を掲載して PR しませんか？

広報紙広告ならではの

## メリット

地域に根ざした  
情報発信

石川県での  
知名度向上

自治体発行の  
信頼度の高い  
広報媒体

お問い合わせは

☎ 092-716-1401

他エリア自治体広告もお任せください！
 株式会社ホープ
福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場
福岡証券取引所Q-Board上場
財源確保
検索